

開放型育種により「フクシマ L2」の 近交係数が抑制され、繁殖能力が維持された

福島県農業総合センター 畜産研究所 肉畜科

1 部門名

畜産－豚－育種・選抜

2 担当者名

尾形賢治、青山勝也、佐藤東、原恵、古閑文哉

3 要旨

本県が造成したランドレース種「フクシマ L2」は、造成から 18 年が経過し、近交係数の上昇により種豚の安定的な維持が課題となっていた。そこで、近交係数の抑制と高い生産性を有する繁殖種豚の継続的な供給を目的に、開放型育種を導入した結果、近交係数の上昇が抑えられ、繁殖成績が維持された。

- (1) 外部精液の導入にあたり、独立行政法人家畜改良センター茨城牧場より、ランドレース種精液を導入した。
- (2) 「フクシマ L2」種豚群に開放型育種を実施することで、近交係数を低下させることができた (図 1)。
- (3) 「(新) フクシマ L2」の繁殖成績は、「フクシマ L2」造成当初の成績が維持された (表 1)。

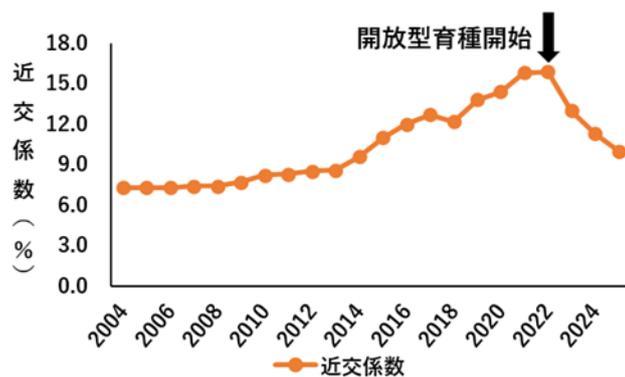


図1 「フクシマL2」の近交係数の推移

表1 「フクシマL2」及び「(新)フクシマL2」の繁殖成績

種雌豚	分娩腹数 (頭)	一腹平均産子数 (頭)	ほ乳開始頭数 (頭)
(新)フクシマL2 ^{注1)}	9	11.7±3.5	10.2±2.9
フクシマL2 ^{注2)}	-	11.2	9.5

注1)2025年度成績

注2)「フクシマL2」造成当初の成績

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～7 年度
- (2) 研究課題名 個性豊かな県優良家畜等の改良

5 主な参考文献・資料

- (1) 矢内伸佳, 「フクシマ D 桃太郎」の開放型育種, 福島県 H29 年度参考成果